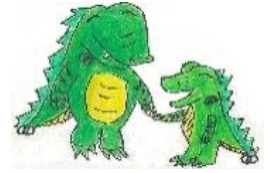




和邇小

ニューズレター

NO.5



2023.9.1 文責 加藤

2学期が始まり、子ども達の元気な声が戻ってきました。久しぶりにあった友達と話す笑顔がまぶしい一日でした。お家の方もゆっくりされたでしょうか。

わたくしの話になりますが、だんだんと歳を重ねるにつれ考え方が変わってきました。今までは、便利なものを求めて生きてきていました。「時は金なり」と、効率を求めていました。自分の幼少の頃と比べ、便利なものが開発され生活は豊かになっています。時間が短縮されることも多くなりました。人ともすぐに繋がれます。しかし、自分の心は豊かになるどころか時間や人に縛られていることに気づきました。お金を使って便利になっているはずなのに。むしろ、不便だった頃の方が豊かに生きていられた気がするのです。

そんな思いから、私は1学期に車を手放しました。今は毎日電車通勤です。やっぱり不便です。電車の時刻に縛られるし、時間もかかります。しかし、いいこともあります。電車の時刻を見越して計画的に自分の行動(仕事も)を管理できるようになりました。適度な運動(駅までの徒歩)も日常に組み込むことができました。電車に乗っている時間を使い読書時間も確保できるようになりました。JRは遅延することも多いです。しかし、「お金を出して違うルートで帰るか、このまま待ち続けるか。」など遅延の状況から帰るルートを選択するのもまた楽しいのです。不便ですが、楽しくなりました。

夏休みに同じ考えを持っている人はいないか探してみました。すると、私の考えていることに名前がついていました。「**不便益**」という言葉です。不便じゃなければ得られない益があるという考えです。自分の考えに名前がついていることを知ったのが、この夏一番の驚きと喜びです。

例えば、以下のような「不便益」の例があります。
○遠足のおやつが200円と決まっていることで、スーパーをうろつき、自分なりの組み合わせを考え必死で選ぶ楽しさができます。200円の制限がなければ親に適当に買ってもらうか買い置きのおやつを放り込んでいるかもしれません。制約(200円)という不便さがあるからこそ、考え抜きワクワクにつながっているのです。

○バリア「フリー」とはよくありますが、バリア「アリー」(あえてバリアを作る)とすることで、日々の生活が身体能力低下のスピードを緩めるプチ訓練になります。

○全国には、あえて園庭をでこぼこにして園児たちをこけさせようと画策する園長先生たちが、そこそこいらっしゃるそうです。園庭を凸凹にしたら、園児たちがいきいきとしたとこのことです。凸凹であるが故に体幹が鍛えられるという「益」があると考えられますが、一番の「益」は「園児がいきいきとした」ということです。確かに、自分も小さい頃は平らで整地されたところよりも野山の入り組んだ所の方が魅力的に感じ歩き回っていました。でこぼこ園庭は疑似野山になっているのではないかと分析されます。



そのように考えると、不便のなかに楽しさや生きがい、考える力などがたくさん詰まっているのではないのでしょうか。

小さい頃、鉛筆をカッターナイフで削るのが楽しくてあえてカッターで削った経験はありませんか。

国語辞典で言葉を調べる時に、調べたい言葉にたどり着くまでに様々な言葉に出会いわくわくしたことはありませんか。

道を歩くときに、縁石の上を歩く方がたのしかった記憶ありませんか。

ルールの中でいかに上手にやり抜こうと考えぬくのが楽しかったことはありませんか。

今の子ども達はデジタルネイティブと呼ばれる子たちです。便利なのが当たり前からこそ、あえて楽しめる不便さを実感することで、便利なものを使いこなせるようになっていくのかもしれない。生き急がず、目の前にある楽しみや幸せを見つけ、与えられる楽しさではなく、楽しさを作り出せる子たちになってほしいと願います。

そのためにも、大人も子どもも少し不便益を実感してみるのはいかがでしょうか。

2学期のスクールカウンセラー来校日

9月 8日 28日

10月 13日 26日

11月 10日

12月 8日

希望者にご連絡ください。

